

フランス語教材作成の実例

- 初級会話用テキストと音声ファイル作成の実例 -

禹 朋子 江口 伸

日本において英語以外の外国語を教える際、音声教材の選択肢は比較的限られている。市販教材の絶対数がどうあれ、特定の授業で使用するとすると、クラスの構成やレベル、学生の興味など、様々な条件を満たす教材は容易には見つからない。授業に合わせて教材を自作することができればいいのだが、音声教材となると技術的な問題のために二の足を踏む、というのが多くの教師の本音ではないだろうか。

以下に述べるのは、2002年度、本学共同研究助成金を受けて作成した初級会話用テキストと音声CD作成の方針と手順である。解決すべき課題を含めて、教材作成のヒントになれば幸いである。

一章 教材の狙いと内容

教材内容：テキスト

本学のフランス語の授業のひとつに初級会話の時間がある。従来この授業に関しては、学生にとって必要十分な授業を提供できるような教材選択に特に苦慮していた。理由は以下の通りである。

- ・カリキュラム上、本学ではフランス語を外国語として選択した学生は文法・講読、あわせて週二回の講義を受けることになっている。従って初級会話の授業は更に会話を習得したい学生が受講する選択科目である。しかし同時に、会話だけをやってみたいという学生も受講する場があり、学生によって予備知識にかなりの差があること。

- ・ただし文法知識の有無にかかわらず、どの受講生も会話については初学に等しい状態であること。

- ・受講の動機は様々であるが、美学美術史学科の学生がパリ現地講義に備えて受講するケースがままあり、かなり実践的な内容が望まれること。

- ・受講生は、単に会話を習得しようとするだけでなく、フランス語圏の国々への興味が旺盛であり、これに応える必要もあること。

以上の点に鑑み、本学の学生がフランスに初めてフランスに個人旅行することを想定してテキストを作成した。実例を本論の最後に挙げるので参照されたい。各課においては、基本会話

の他、新出文法事項解説、単語リスト、応用会話作成、参考サイトを使っての情報収集のコーナーを設けた。

教材内容：録音の形態

このような本学特有の事情に加え、私自身が市販の会話練習用音声付き教材に関して抱いていた疑問点として、次のことを指摘しておきたい。いずれも学習の主体はあくまで学生であると捉えることによって生じる不満点である。

- ・一課毎の目標到達基準が明確でないこと。文法教科書では解説の末尾に練習問題があり、これによって理解度をチェックするのが自明の前提となっているが、会話用教材ではこのような配慮が見られない。授業中に教師が個別指導するだけでなく、学生自身が自分の到達度を把握できる工夫が教材自体に組み込まれていることが望ましい。

- ・音声の録音が、学生が自宅で学習するにあたって、十分な発音練習できるような形態になっていないこと。すなわち殆どの教材では、モデル会話が録音されているのみで、これでは自宅学習の際にはこれを聞くことに終始しがちである。

- ・同様に、単語レベルでの録音がないこと。単語を個別に録音している教材は、検定試験準備用の単語帳くらいである。学生の負担を考えると、会話教材の中にこれが組み込まれていることが望ましい。

以上の理由により、録音部分はテキスト中の基本ダイアログ、単語（動詞活用を含む）、および応用聞き取り会話とした。また、情報処理作業により（詳細は第二章参照）学生に配布するCDには、基本ダイアログのあとに、発話者二名のうち片方の発話部分をイレースした状態のデータを追加した。学生には、自宅で基本ダイアログの日本語訳をみながら、発話者の一人になったつもりで相手役と対話する練習をするよう指導し、これを完全にマスターすることを到達目標として与えた。

録音作業の分担

人間文化学部松本章先生の協力を得、同学部のスタジオを使用して録音作業を行った。録音当日のスピーカーはクリスティーン・タンベール先生（本学講師）、亀井聡里さん（本学学生・リアルに一年の留学経験有り）、禹の三名。江口が技術を担当した。

スピーカーの役割分担は次の通り。

基本ダイアログ：タンベール、禹

単語：タンベール

応用聞き取り練習：タンベール、亀井

情報処理の方針

共同研究の当初計画では、パソコン上で使用するCDデータを準備して学生に配布する予定であった。イメージとしては、テキストと音声統合された状態で準備され、テキストの一部をクリックすればその部分の音声再生されたり、音声が流れるのに合わせてテキストの色が変化し、どの部分が読まれているかを視覚的に示す、というものである。

しかし録音作業終了後、学生に尋ねると、自宅で自由にパソコンを使える環境にある学生は半数ほどしかなかった。またパソコンは持っていても、処理されたデータを読み込むのに必要なソフトを備えているとは限らない。大学内の自習室を使う場合、個室ではないので発話練習をすることはできない。更に情報処理上も準備がより容易であるという理由もあり、結局、全員が自宅で確実に使用できる様、音声ファイルは音楽CD状にして配布することとした。

教材の利用方法

このCD教材は、2003年度の授業で実際に使用している。授業では次のような手順で教材を使用している。

まず基本ダイアログと単語の録音を聞き、次いで皆で発音練習をする。その後必要な文法事項を説明し、再度発話練習を行う。教材には映像が欠けているので、必要に応じてビデオやDVDを用いてこれを補っている。フランスの駅、美術館等、現地情報を映像で紹介する場合もあるが、応用聞き取り練習を行った後、同テーマを扱った他の教材（学生にとっては初めて接するビデオ教材）を提示して理解度を測る場合もある。

各課の仕上げとして、参考サイトで情報収集の実践練習を行う。その際は教室からコンピューターを備えた自習室へ移り、一人で一台を使用して自力でサイトから情報を得よう促している。

自宅学習の課題は、上記の通り、基本ダイアログにおいて発話者役を完全にこなすことである。一課が終わる毎に、一人ずつ達成度をチェックしている。

二章 情報処理の実際

録音場所・日時

本学人間文化学部 4F常設スタジオ（協力：人間文化学部 松本章助教授）

日時：2003年3月25日 13：00～17：00

音声データ処理の概略

録音時

使用機材：スタジオ設備

Audio Mixer SPD-V110 (ミキサー)

Editing Control Unit PVE-500 (録音操作機器)

Digital Videocassette Recorder DSR-80 (録音機器)

処理内容：音声データをデジタルビデオテープへ録音した。

1次処理

使用機材：iMac (パソコン)

外部音声データ入力用装置 (補助装置)

デジタルビデオ (音声再生用)

Sound Edit16 Version2J (ソフトウェア)

処理内容：デジタルビデオで再生させた音声データをパソコンへの取り込み用装置を介しソフトウェアにてwaveデータとして保存した。

2次処理

使用機材：WindowsXP、Windows2000 (パソコン)

spwave (波形処理用ソフトウェア)

処理内容：一次処理にて作成されたwaveデータを章毎に細分化し、さらにノイズ除去等の波形処理を行なった。波形処理されたwaveデータを音楽CDとしてCD-Rに記録した。

具体的手法

【スタジオでの録音】

アナウンサーブースが設けてあり会話録音にあたっての遮音性はかなり高いレベルに保たれた。録音開始前には入力レベルの調整やテープの初期化が行なわれた。なお今回はスタジオ利用が初めてだったため、それらの作業は松本助教授にそのほとんどをお願いする事になった。録音を開始するタイミングはブース外の録音機器操作者から出され、その指示に従いブース内の発声者は手元にあるマイクボリュームのレベルをあげ会話を開始した。録音終了時については事前打ち合わせに従い行なわれた。録音開始及び終了の操作は録音機器操作者手元のボタンのON/OFFで行い、後述の2次処理のために録音時間を各章毎に記録した。録音内容は約1時

間に達したため、途中テープを交換し2本のテープに分けて録音した。

【1次処理】

iMacに外部音声データ入力補助装置をUSB接続し、その補助装置の音声入力端子とデジタルビデオカメラの音声出力端子とを結びデジタルビデオカメラから音声データを入力した。ビデオテープ1本分を1データとして入力保存し2つのwaveファイルが作成された。

【2次処理】

一次処理で作成した2つのwaveファイルを、録音時のタイミングを参考に各章毎にデータを切り出す作業を行なった。この作業にあたっては「spwave」という波形処理ソフトを利用した。この2次処理の段階でわかった事であるが、アナンスブースの遮音性が高くとも録音機器のレベル調整がうまく機能してない場合は無音部分にノイズがのるという事である。このノイズのイレース作業に非常に時間を取られた。具体的にはFig.1を元に説明したい。図は横軸が時間軸、縦軸が振幅であるが、図中の および のエリアは本来無音部分であって欲しいところである。しかし の部分はブース内のマイクレベルを0にしているにもかかわらずノイズが発生していることがわかる。また の部分はブース内のマイクレベルを録音時用に上げた部分であるが、この部分でもまだ会話は行なわれていないにもかかわらず大きなノイズが発生していることがわかる。これらの現象は入力レベルを上げすぎた事が原因と推測できる。今後もこのような録音作業を行なう場合にはレベル調整に細心の注意を払う必要があると思われる。

また、会話録音には2本のマイクを使ってステレオ録音を行なったが、同室内での会話であったため、一方のマイクに他方の会話がわずかなレベルではあるが録音されていた。教師(L) - 学生(R)の会話聞取り場合には支障ないと思われるが、教師(L) - 無音(R)の練習形式のデータを作成する場合に先の学生(R)の会話部分をイレースしただけでは学生の会話が教師側(L)にも残っており、会話練習に支障があると思われたため本来教師側(L)で無音になっているべき部分のイレースを行なった。それと同時に、学生の会話練習レベルに合わせるため無音時間を約1.5倍に延長した。イレース

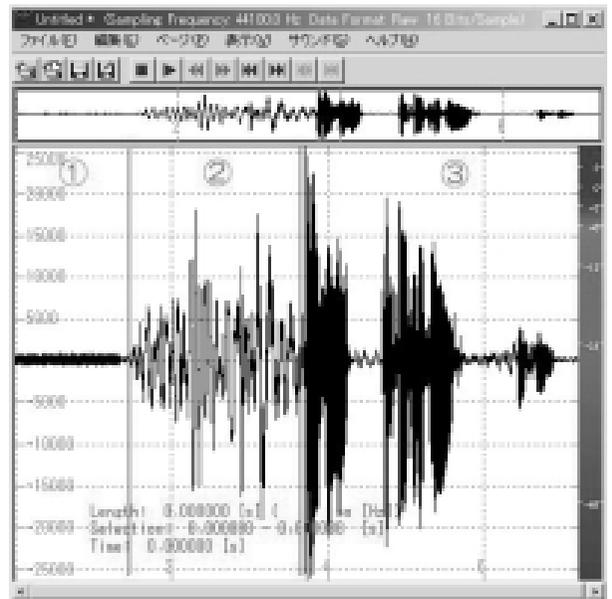


Fig.1

に際しては該当部分をドラッグし「イレース」メニューで、無音時間の延長は「無音時間の挿入（時間指定）」で行なった。操作自体は複雑ではないが、会話を聞き波形を見ながら作業を行なうため非常に時間がかかる事が難点である。録音時、時間的に余裕がある場合は聞き取り用と練習用とを分けて録音する方が作業時間は少なく済みそうである。

音楽CD作成は、複数作成した wave ファイルに昇順のファイル名をつけ、CD-R へのライティングソフト「nero」にて wave ファイル 音楽CDの書き込みを行なった。

今後の課題

今回は音声データのみ加工に終わってしまった。テキストと音声データとをシンクロさせパソコンで操作できるコンテンツを作成する事が当初の目的である。これを実現させるためにはマルチメディアコンテンツ製作用ソフト「Flash」を用いることが一つの手法として考えられる。今回はFlashの操作が初めてでありその技術的手法の習得が不足していたためにコンテンツを完成させる事が困難であった。事前の準備が不足していた事は反省すべき点である。Flashで作成したコンテンツはWebコンテンツとしてホームページ上でのコンテンツ配布が容易になる。利用者はFlashプラグインがインストールされたブラウザと音声出力装置（スピーカーかヘッドホン）が備わったパソコンであればコンテンツが利用可能になる。学内LANで利用する場合は現在のネットワーク環境であればコンテンツ容量をそれほど気にする必要はないが、学外からナローバンド経由でアクセスする利用者に対する配慮としては出来るかぎりの少量化を図る必要がある。

結び

教材の自作は労多き作業である。しかし、学生の学習にとって何が一番必要かを考える最大のチャンスでもある。本稿執筆現在（2003年10月）、教材に対する学生の反応は良好である。作成の意図が学生の希望に合致したことの他、予想外の理由として次の点が挙げられる。

- ・本学のスタッフが作成していることや学生が録音に参加していることに好感がもてる
- ・一人一人のためにCDが作成され、手渡されることに「特別感」がある

今後は、情報処理の方法により習熟すると同時に、教材をよりパーソナライズされたものにしていく工夫も必要であると考えられる。

教材例 1

1 Dans l'avion

飛行機の中では、食事の前に飲物が出されるのが普通です。水、フルーツジュースサイダー類、コーラ、ビール、ワイン、その他リキュール類が用意されていますが温かい飲物は通常出されません（暖かい飲物は食事の後にされる）。また飛行中は多めに飲物を取る必要があります。いつでも好きな物を頼めるようにしておきましょう。

Dialogue modèle

よく聞いて音に慣れましょう

特に重要で、そのまま覚えたい表現は太字になっています

Hôtesse d'air : Qu'est-ce que vous voulez boire, Mademoiselle ?

Satori : Du coca-cola, s'il vous plaît.

Hôtesse d'air : Avec des glaçons ?

Satori : Oui, s'il vous pla t.

Hôtesse d'air : Et du citron ?

Satori : Non, merci.

Hôtesse d'air : Voilà, Mademoiselle.

Satori : Merci.

A vous !

どちらか一方だけの音声が流れます。

日本語を参考にポーズの部分で自分で言ってみましょう。

Hôtesse d'air : 何になさいますか？

Satori : コーラを下さい

Hôtesse d'air : 氷をお入れしましょうか？

Satori : ええ、お願いします

Hôtesse d'air : レモンは？

Satori : いいえ、結構です

Hôtesse d'air : はいどうぞ

Satori : ありがとう

Grammaire

名詞の性

フランス語の名詞は、ごく一部の例外を除いて男性名詞と女性名詞に分かれています。辞書を引いて見出しの直後に「男」または「m」とあれば男性名詞、に「女」または「f」とあれば女性名詞です。

冠詞

フランス語には三種類の冠詞があります。

定冠詞、不定冠詞、部分冠詞です。部分冠詞というのは、人為的な単位なくしては数えられない物につける不定冠詞の一種です。英語の some にあたります。

冠詞はついている名詞の性数によって変化します。また直後の単語が母音で始まる場合、カッコ内のように一字省略して次の語と続けて読まれます。このような一字省略を「エリジオン」と言います。

	定冠詞		不定冠詞		部分冠詞
	単数	複数	単数	複数	
男性	le (l')	les	un	des	単複の区別はない du (de l')
女性	la (l')	les	une	des	

du coca-cola の du

des glaçons の des

du citron の du は、それぞれ何にあたりますか？またどうしてこれが使われているのか考えてみましょう。

Vocabulaire

次の単語の意味や男性女性の区別を辞書で調べましょう。

また単語の性に注意して、飲物に部分冠詞をつけて言ってみましょう。

avec

eau

eau minérale

jus

jus de tomate

jus de pomme

jus d'orange

soda

Perrier

vin rouge

vin blanc

シャンペン

ビール

ウイスキー

ポルト酒

動詞

boire

vouloir

je veux nous voulons

tu veux vous voulez

il veut ils veulent

Votre modèle

自分の好きな飲物を入れて対話を完成させ、練習してみましよう

Hôtesse d'air : Qu'est-ce que vous voulez boire, Mademoiselle ?

あなた:

Hôtesse d'air :

あなた :

Hôtesse d'air :

あなた :

A Satori !

対話を聞き取ってみましよう

Hôtesse d'air : Qu'est-ce que vous voulez boire, Mademoiselle ?

Satori : Du jus de tomate, s'il vous plaît.

Hôtesse d'air : Avec du citron ?

Satori : Oui, merci.

フランス語教材作成の実例

Hôtesse d'air : Vous voulez des glaçons ?

Satori : Non, merci.

Hôtesse d'air : Voilà, Mademoiselle.

Satori : Merci.

- ・サトリは何を頼みましたか
- ・中には何を入れてもらいましたか

Renseignez-vous !

大阪からパリに行くにはどのような経路がありますか。

どの飛行機会社が週に何便くらい運行しているか、また季節毎の飛行時間や運賃についても調べてみましょう。

参考サイト :

関西国際空港 <http://www.kansai-airport.or.jp/>

H.I.S. <http://www.his-j.com/>

教材例 2

7 Dans un cafe

学習事項 食べ物 の 語彙 を 増やす

Dialogue modèle

Serveuse : Bonjour, vous êtes combien ?

Satori : Je suis seule.

Serveuse : Alors, par ici. Voilà la carte.

Satori : Merci.

Serveuse : Vous avez choisi ?

Satori : Oui. Un sandwich, s'il vous plaît.

Serveuse : Sandwich à quoi ?

Satori : Qu'est-ce que vous avez ?

(Qu'est-ce qu'il y a ?)

Serveuse : Jambon beurre, fromage, thon, crudités ...

Satori : Un jambon beurre, s'il vous plaît.

Serveuse : D'accord. Et comme boisson ?

Satori : Je prends un jus d'orange.

Serveuse : Très bien.

Serveuse : Vous avez terminé? Vous voulez un petit café ?

Satori : Oui, je veux bien. Et l'addition, s'il vous plaît.

Serveuse : Tout de suite.

A vous !

Serveuse : いらっしゃいませ。何名様ですか？

Satori : 一人です

Serveuse : ではこちらにどうぞ。メニューです。

Satori : ありがとう。

Serveuse : おきまりですか？

Satori : ええ、サンドイッチをひとつお願いします

Serveuse : 何のサンドイッチになさいますか？

Satori : 何がありますか？

Serveuse : ハムとバター、チーズ、ツナ、生野菜...

Satori : ハムとバターのをお願いします

Serveuse : かしこまりました。お飲物は？

Satori : オレンジジュースにします

Serveuse : かしこまりました

Serveuse : お済みですか？ コーヒーはいかがですか？

Satori : ええ、いただきます。それからお勘定をお願いします。

Serveuse : ただいま。

Vocabulaire

seul(e)

quoi

sandwich (m)

salade (f)

omelette (f)

jambon (m)

fromage (m)

thon (m)

crudités (f, pl)

mixte

nature

carafe

terminer (1^{er} groupe)

petit

je veux = vouloir

addition

d'accord

trés bien

tout de suite

その他、カフェで頼めるものの名前を覚えましょう

•

•

•

•

•

Votre modèle

自分の好きな食べ物を入れて対話を完成させ、練習してみましょう

Serveuse : Vous avez choisi ?

Satori : Oui. _____, s'il vous plaît.

Serveuse :

Satori :

Serveuse :

Satori :

Serveuse : D'accord. Et comme boisson ?

Satori :

Serveuse : Très bien.

Serveuse : Vous avez terminé ? Vous voulez un petit café ?

Satori :

Serveuse : Tout de suite.

A Satori !

サトリ達は何人ですか。何を注文しましたか。

Serveuse : Bonjour, vous êtes combien ?

Satori : Nous sommes trois.

Serveuse : Alors, venez ici. Voilà la carte.

Satori : Merci.

Serveuse : Vous avez choisi ?

Satori : Oui. Un sandwich au thon, une salade mixte et une omelette, s'il vous plaît.

Serveuse : Omelette à quoi ?

Satori : Une omelette nature, s'il vous plaît.

Serveuse : D'accord. Et comme boisson ?

Satori : Une carafe d'eau.

Serveuse : Très bien.

Serveuse : Vous avez terminé ? Vous voulez un petit café ?

Satori : Non, merci. L'addition, s'il vous plaît.

Serveuse : Tout de suite.

禹 朋子 (本学助教授)

江口 伸 (本学メディアセンター員・本学講師)

執筆分担 第二章 江口

上記以外 禹